

仏 壮「除 夜」 会

十二月二十八日（土）

午後四時～

お勤め（正 信

偈）

住 職 法 話

昇った日は沈まねばならぬ
咲いた花は散らねばならぬ
生まれた者は死なねばならぬ
これは自然の法則である
だから悲しむことはない
大切なはその刻々を
どう生かして来たかにある

坂村真民

（質問）昔は挨拶に「おかげ
さまで」と云うことが聞か
れましたが、最近あまり聞
かれなくなりました。私自身も口の中
で何が足りないのか。心の

く日本語には仏教用語に基づ
ます。一お深い言葉が沢山あり
命を支えてくれる多くの恵み
を「陰」と呼ぶ丁寧語の「ま
け」お言葉です。一様まで付
けた言葉が残念なことに、現
代社会では命を問うことの機
会が少なく、自分で得たもの
に感謝する必要はない。とさ
です。物質的な豊かさを享受す
一方、心的な豊かさを享受する
なつてきていると指摘され

（質問）正信偈の「往還廻向
由他力」の一節を解説して下さい

正信偈で曇鸞大師を讃えら
れる12句中の1句で、「浄
土に往生して仏に成ること
（往相）も、この世へ還つてき

相）が「できるのも、すべて阿
弥陀様の本願力（他力）によ
るものです」という意味で

こと、特筆すべきことが二点た
あり、「一始めに、一如来の本
願力」を始めて「他力」とい
う50年を経た現在です。一
もすれば、他人の力をあてに
する「如来の本来の意味はわ
れが「阿彌陀如来の本願によ
一阿彌陀如来の本願による救
いの力は、一往來の阿彌陀
願力に「往來」と「阿彌陀
廻向」があることを明らかに
され、浄土へ往生すること、
浄土の世に還つて来なければ
この世に還つて来なければ
彌陀様の「本願」は「救いた
い」という「利他」の願いで
あり、私達が「本願力」によ
らば、そこが仏と成ったなら
始まり、衆生救済への向かう
り来り、衆生救済への向かう

前号よりつづき

阿
弥
陀



は、おけないう姿勢
 であり、阿弥陀さん
 は、無明の闇の世界を
 動き回る私達のこと
 を、心配で心配で仕方
 がないと仰るのです。

○凡夫とは

ち、そねみ、ねたむこ
ころおほくひまなくし
て、臨終の一念にいた
るまで、とどまらず、
きえず、たえず』とお

われ称えなれど
われ聞くなれど
わ無阿弥陀仏の
つれていくぞの
親のよび声



この阿弥陀さんのは
たらきは攝取不捨とも
呼ばれ、親鸞聖人は
『逃げ往くものを追
かけて捕まえておさめ
とるなり』と解説して
下さっています。阿弥
陀さんは、攝取不捨と
私を追いかけてつかま
えて、離さんと仰って
下さるのです。

それにはまさに、ラグ
ビーのレフリーが選手
を追いかけて、寄り添
って、反則を未然に
防ぎ良い試合になるよ
う一生懸命になるよ
る姿と重なるよ
気がします。お

